

本覺大師宣揚碑

所在地：新市町宮内

県道26号沿い新市中央中学北 老人ケア施設「白ゆり新市」のすぐ西山際

経緯度：東経：133度 16分 17.2秒 北緯：34度 33分 54.3秒



入口にある碑



僧益信(827～906年)は大安寺に入り、元興寺明詮に法相を学んだ、益信は宇多天皇に信任され以後の栄達を果たすことになる。その契機は、右大臣藤原氏宗の後室藤原淑子の病を益信が祈祷によって癒したことにある。淑子に深く帰依されることになり、その山荘を寺となし益信をして円成寺の開基としたのであるが、氏宗・淑子の猶子源定省が皇籍に復し、仁和3(887)年天皇位についたのである。仁和4年4月権律師、寛平2(890)年律師、同4年権少僧頭、同5年東寺長者、同6年東大寺別当を兼務、同7年権大僧頭、同8年石清水八幡宮検校、そして昌泰3(900)年に10年も空位になっていた僧官の最上位である僧正に任ぜられた。この間、昌泰2年宇多上皇の出家受戒の戒師を務め、延喜元(901)年にも東寺灌頂院にて宇多法皇に伝法灌頂を受けた。延喜六(906)年三月七日、円成寺にて入寂。徳治3(1308)年「本覺大師」の称号を賜った。遺徳を顕彰すべく備後地区真言宗寺院と一般の寄付を募り。昭和8年4月に五輪の宝塔を建て、廟所入口に「本覺大師廟所路標」と大書きした石碑が建てられた。昭和56年廟所建立50周年記念として周囲に玉垣が巡らされた。

参考文献
新市町史 (発行：新市町)
考現考古・宮内下市 (発行：網引郷土文化財研究会)